

◇ 松医会のページ ◇



—信州大学医学部同窓会—

落ち着いた一年を振り返って……雑感

平成21年も残すところ1カ月余りとなり、もうすぐ師走を迎えます。想えば、この平成21年は、職場の環境がこれまでになく激変した1年でした。これまでも勤務先の病院が変わったり留学したりで、個人的には仕事をする環境が変わることはたびたびありましたが、入局以来27年になりますが、信州大学医学部と附属病院そのものがこれほど大きく変わったことはなかったように思います。

5月初めの病院新コンピュータ・システムの導入と新外来棟オープンに向けて、新年は、昨年から引き続いてその準備のための会議で幕が開きました。会議は回を重ねるごとに準備が間に合わなくなってその頻度が増えていき、4月には毎日ようになりしました。いよいよ5月の連休明けに予定通り、病院新コンピュータ・システムと新外来棟がスタートしました。それに伴って、外来診療録を含む全面電子カルテ化が同時に導入されました。運悪く、国全体を震撼させるような新型インフルエンザ騒ぎが勃発し、その対応に奔走する時期と重なってしまいました。私自身は、その騒ぎの中、ちょうど新システム運用開始の翌日からサンフランシスコへ1週間の出張があり、帰国してみると、1週間の自宅待機命令を受けました。不謹慎ながら、この時ほど診療から開放されたことは医師になってから初めてで、思いがけずにこの上ない骨休めの至福の時を頂戴しました。

電子カルテ・新病院システムは、入念に準備したにもかかわらず、実際に動き出してみると、不慣れなことで手間取るのに加えて、いろいろと不具合が毎日のように表面化して苛立つ日々が続きました。さらに、追い討ちをかけるように、6月には病院機能評価、7

月には臨床棟耐震改修のための仮住まいへの引越しがありました。長年溜め込んだ、今となってはもう使うこともないような大量の書類や雑誌を処分する良い機会となりました。秋を迎えてこの半年で大きく変わった環境にもようやく慣れてきて、落ち着きを取り戻した感じがします。しかし、来年2月には、耐震改修も済み、また、元の臨床棟に戻る引越しが待っています。7月の引越しで懲りたためか、こまめに物を整理して不要なものを溜め込まない習慣ができてきたのが今年最大の成果か(?)とも思います。

ところで、今回の耐震改修には、棟続きであるにもかかわらず、臨床講義棟は対象とならずに残されました。この臨床講義棟の改修のため、松医会の皆様のもとには、募金のお願いの趣意書「信州大学医学部再開発事業募金趣意書」が届いていることと思います。募金額の設定について、多くの同期生や同僚からお叱りの言葉をいただきました。趣旨はよくわかるし、微力ながら後輩たちのために応援したいが、「一口5万円、2口以上のご協力をお願い申し上げます。一口未満のご寄附につきましても、有り難くお受けします。」とは何事か?この場合の募金は、本来、善意、母校愛から自主的にするものであり、募金の金額を依頼する側が規定するのは傲慢であるとお叱りでした。全くそのとおりで、弁解の余地がありませんが、副実行委員長(松医会副会長)の1人として、この場をお借りして一言お詫びを申し上げたいと思います。講義棟改修工事費総予算額が約2億円で、それを松医会の先生方の募金で賄おうとすると、物故者や交信不能の方を除く実質の松医会会員数が約4千名で仮にその半数が募金していただけるものとしても1人あたり10万円という金額になります。このような算定に基づいて、やるからにはなるべく目標額を達成したいという熱意から、今回のような言葉足らない表現になってしまいましたことをどうかお許してください。金額は全く問いませんので、できるだけ多くの会員の皆様が趣旨にご賛同いただき、ご協力下さいますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

(文責 松医会副会長・学内理事 泌尿器科学

井川靖彦)